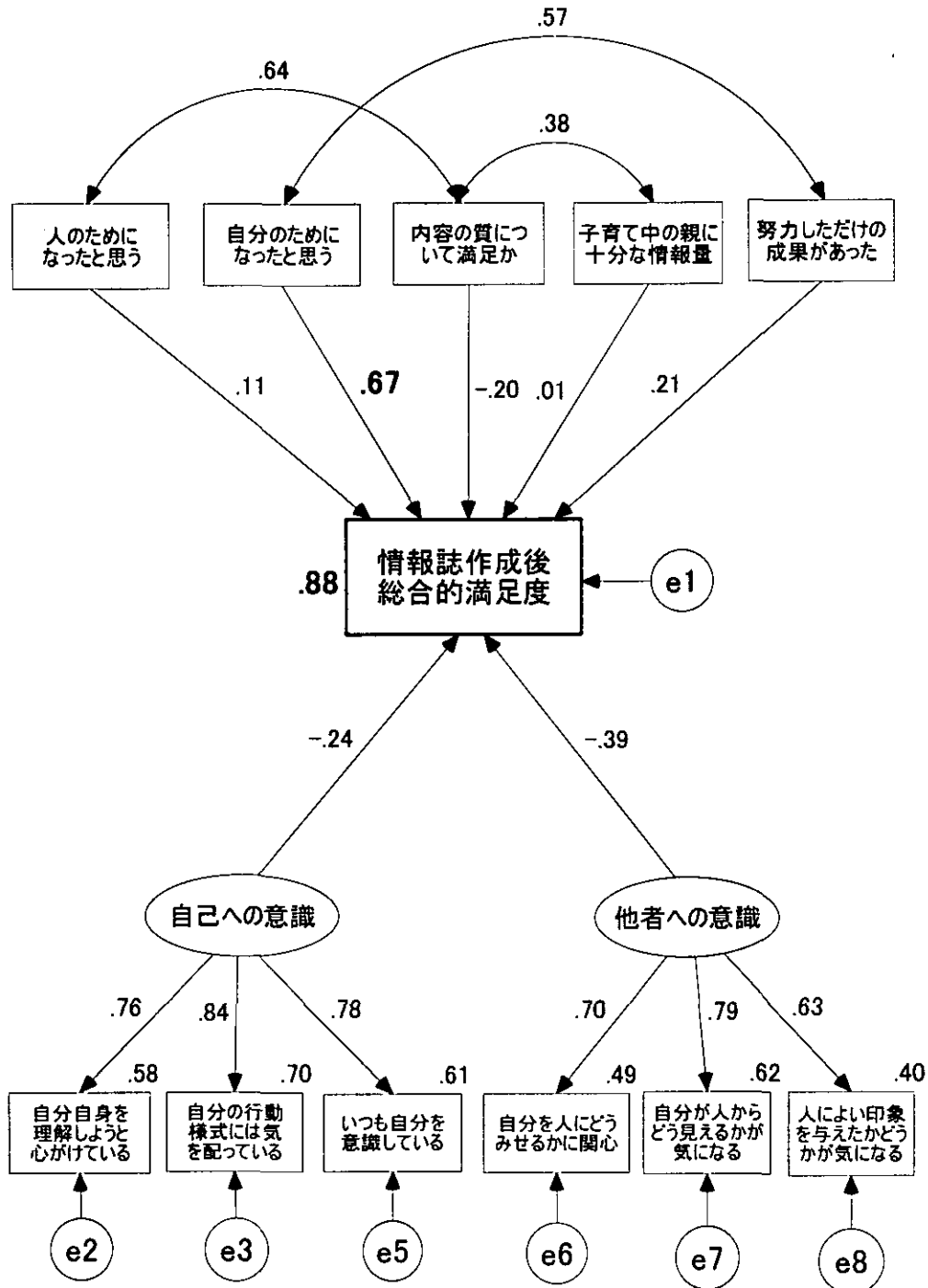


図2：共分散構造分析による情報誌作成参加メンバーの満足度に及ぼす要因

子育て情報誌作成後の参加メンバーの満足度



共分散構造分析による分析では、「満足度」を規定する大きな要因は「自分のためになった」であり、「人のため」、「内容の質」に関する満足度にはあまり規定されないことがわかる。重回帰モデルとして示したものであるが、重相関係数は0.88であり、きわめて当てはまりのよいモデルといえる。「自分のため」以外に「満足度」を規定する要因は、他者への意識によっても影響を受けると考えられ、他者への意識の強さは「満足度」を低めるようである。

1. 大いに 2. まあ 3. 何とも言えない 4. たまに 5. 全くない

質問内容	回答				
	1	2	3	4	5
1.常に自分自身を理解しようとして心がけている	1	2	3	4	5
2.自分の行動様式には気を配っている	1	2	3	4	5
3.いつも自分を意識している	1	2	3	4	5
4.自分自身についてよく反省する	1	2	3	4	5
5.自分を人にどうみせるかに関心がある	1	2	3	4	5
6.空想の主人公は自分であることが多い	1	2	3	4	5
8.自分が人からどう見えるかが気になる	1	2	3	4	5
9.一般に自分の内的感情には注意を払っている	1	2	3	4	5
10.人により印象を与えたかどうかが気になる	1	2	3	4	5
11.自分の動機をいつも吟味している	1	2	3	4	5
12.出かける前には必ず鏡をみる	1	2	3	4	5
13.気分の変化に敏感である	1	2	3	4	5
14.自分の外見をいつも意識している	1	2	3	4	5
15.何かの問題に取り組むときには、自分の心の動きを意識している	1	2	3	4	5
16.人に見られていると仕事がぎこちなくなる	1	2	3	4	5
17.大勢の集団に入ると神経質になる	1	2	3	4	5
18.人前で話すときには不安を感じる	1	2	3	4	5
19.知らない人でも平気で話ができる	1	2	3	4	5

因子分析、平均値算定のために、データセット内では回答の順位を逆転させている。すなわち、1→5点、2→4点、3→3点、4→2点、5→1点、項目7は削除して用いた。

質問5と質問8の項目による「総合的満足度」を目的変数とした重回帰分析

係数^a

モデル		非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
1	(定数)	.833	.651		1.280	.223
	1. 人のためになったと思う。	.126	.225	.146	.561	.584
	2. 自分のためになったと思う。	.709	.170	.674	4.172	.001
	3. 収集した地域情報の内容の質について満足できましたか。	-.156	.143	-.235	-1.091	.295
	4. 子育て中の親にとって、十分な情報量になったと思いますか。	-.030	.145	-.037	-.209	.838
	5. 努力しただけの成果はあがったと思いますか	.153	.179	.173	.854	.409
	自己への意識	-.148	.103	-.235	-1.438	.174
	他者への意識	-.275	.110	-.415	-2.497	.027

a. 従属変数: 6. この作業に加わって総合的に満足できましたか

モデル集計

モデル	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差
1	.908 ^a	.824	.730	.30644

a. 予測値: (定数)、他者への意識、1. 人のためになったと思う。、自己への意識、2. 自分のためになったと思う。、4. 子育て中の親にとって、十分な情報量になったと思いますか。、5. 努力しただけの成果はあがったと思いますか。、3. 収集した地域情報の内容の質について満足できましたか。。

分散分析^b

モデル		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
1	回帰	5.732	7	.819	8.719	.000 ^a
	残差	1.221	13	.094		
	全体	6.952	20			

a. 予測値: (定数)、他者への意識、1. 人のためになったと思う。、自己への意識、2. 自分のためになったと思う。、4. 子育て中の親にとって、十分な情報量になったと思いますか。、5. 努力しただけの成果はあがったと思いますか。、3. 収集した地域情報の内容の質について満足できましたか。。

b. 従属変数: 6. この作業に加わって総合的に満足できましたか

重回帰モデル

- 1) 重相関係数 0.908
- 2) 「自己への意識」「他者への意識」は因子得点

質問5：編集が完成して、その満足度について訊いた結果の相互の相関関係

相関係数

	1. 人のために なつたと思ふ。	2. 自分の ためになつ たと思ふ。	3. 収集した 地域情報の 内容の質に ついて満足で きましたか。	4. 子育て中の 親にとつて、十 分な情報量に なつたと思ひま すか。	5. 努力した だけの成果 はあがつたと思ひま すか。	6. この作業 に加つて総 合的に満足で きましたか。
Spearmanのρ-	1.000	.198	.614**	.280	.610**	.263
有意確率 (両側)		.389	.003	.219	.003	.249
N	21	21	21	21	21	21
相関係数	.198	1.000	.036	.342	.463*	.603**
有意確率 (両側)	.389		.876	.129	.035	.004
N	21	21	21	21	21	21
相関係数	.614**	.036	1.000	.422	.478*	-.038
有意確率 (両側)	.003	.876		.057	.028	.871
N	21	21	21	21	21	21
相関係数	.280	.342	.422	1.000	.427	.290
有意確率 (両側)	.219	.129	.057		.054	.203
N	21	21	21	21	21	21
相関係数	.610**	.463*	.478*	.427	1.000	.572**
有意確率 (両側)	.003	.035	.028	.054		.007
N	21	21	21	21	21	21
相関係数	.263	.603**	-.038	.290	.572**	1.000
有意確率 (両側)	.249	.004	.871	.203	.007	
N	21	21	21	21	21	21

**、相関は、1%水準で有意となります(両側)。

*、相関は、5%水準で有意となります(両側)。

質問1:子育て情報誌作成チームに加わった動機

回答	度数	列%
1. 実際に地域の子育て情報が乏しくて困っているから	6	30.0
2. 自分の子育て中に、地域の子育て情報が不十分で大変苦労した	5	25.0
3. 自分自身も、子育てについての地域の生の情報を知りたいから	9	45.0
4. 社会のために貢献したいと思ったから	0	0.0
5. 自分自身の自己実現の場として最適と思ったから	5	25.0
6. 自分の持っている情報や知識を役立てたいと思ったから	4	20.0
7. その他	1	5.0
合計	20	100.0

質問5: 質問に対してお「大いにそのとおり」と回答したものの割合%

回答	度数	列%
1. 人のためになったと思う。	7	36.8
2. 自分のためになったと思う。	16	84.2
3. 収集した地域情報の内容の質について満足できましたか。	7	36.8
4. 子育て中の親にとって、十分な情報量になったと思いますか。	3	15.8
5. 努力しただけの成果はあがったと思いますか	10	52.6
6. この作業に加わって総合的に満足できましたか	14	73.7
合計	19	100.0

働いていますか

回答	度数	パーセント
専業主婦	13	61.9
自営業	3	14.3
その他	3	14.3
合計	19	90.5
無回答	2	9.5
合計	21	100.0

年齢を選んでください。

回答	度数	パーセント
20歳代	5	23.8
30歳代	13	61.9
40歳代	3	14.3
合計	21	100.0

子ども数

回答	度数	パーセント
一人	11	52.4
二人	7	33.3
三人	2	9.5
四人	1	4.8
合計	21	100.0

第一子の年齢階級

回答	度数	パーセント
4歳未満	10	47.6
7歳未満	6	28.6
児童・生徒	3	14.3
高校生以上	2	9.5
合計	21	100.0

質問8:参加者の性格評価

	第一因子	第二因子
1.常に自分自身を理解しようと心がけている	0.905	0.157
2.自分の行動様式には気を配っている	0.684	0.242
3.いつも自分を意識している	0.724	0.150
5.自分を人にどうみせるかに関心がある	0.478	0.599
8.自分が人からどう見えるかが気になる	0.026	0.865
10.人によい印象を与えたかどうか気になる	0.419	0.534

因子抽出法: 主因子法 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

第一因子: 自分に対する意識

第二因子: 他者への意識

質問1: 子育て情報誌作成チームに参加した動機

コード1	コード2	コード3	コード4	コード5	コード6	コード7	記述
地域情報	取材	話し方	書き方	考え方	疑問を探	学ぶ	地域情報を取材することを通して、話し方、書き方、考え方を学ぶことがあった。
子連れ	子どもと一緒に楽しむ	情報	育児のマンネリ化	育児ライブラリー	楽しむヒント		安心して子どもを連れて行ける場所と子どもと一緒に楽しめることの情報をたくさん知りたかった。育児は毎日毎日続くものの。マンネリパターンに陥らず工夫しながら育児ライブラリーを楽しむことがあった。
子育て真っ最中	最新情報	自分の情報	伝える	ライター経験	活かせる	最適の場	子育て真っ最中で、最新情報はいつでもほしかったのと、逆に自分の知っている情報を皆にも教えてもらった。ライター経験を生かせる最適の場でもあった。
友だち	誘われる	楽しむ					お友達を誘いで、「楽しそうだな!」と思い参加しました。
未経験のこと							今までやっていた事のない事をやってみてみたかったから。
面白い	作業が好き	去年も参加	反省	よりよいもの	子育て支援講座	相違点	こういう作業が結構好きで、面白そうだったから。去年も参加したが、その時、こうすればよかったという反省も踏まえ、さらに去年の経験を生かしてより良いものを作りたいと思ったから。子育て支援講座で作成している「〇〇子育てガイドブック」の編集にも参加したが、それとの違いも認識したかったから。
地域の情報	出産前には二一トなし	出産後二一ト出現	達成感を味わう	結婚して5年	自分の住む町		子どもを産む前にも、結婚してから5年程〇〇に住んでいますが、仕事をしていたせいで、〇〇の事をほとんど知りませんでした。また、知りたいう気にもなりません。ですが、子どもを産んでからは、やはり自分の住む町、市の地域情報が知りたくなりました。きつと、同じ思いを持つ人はたくさんいるだろうという思いと、「何かをした!」というすぐ目に見える達成感を味わいたいという思いからこの講座に参加しました。
誘われる	楽しそう	未来のママ	伝達する				最初のきっかけが、ママ友だちの誘いで、こういうことをやるのか具体的内容はわかりませんが、楽しそうだなと。これからママさんになる人達に広められればと思っただけから。
隣の市に住む	情報誌	自分の町の情報	学ぶ				私は〇〇市の子育てママではなく、近隣の〇〇市から参加しました。自分の地域でも、情報誌を作成したいと思い、学びに来たのです。
親として	不甲斐なさ	自分の生き方を肯定	生き方を楽しむ	生き方の充実			上記回答4、5のように言葉にしてしまおうと大層な感じがして、違和感がありますが、親としての自身の行き方に常に不甲斐なさを感じています。親としてののみならず、人としての自身の生き方を少しずつでも肯定して楽しんで、実感したりして充実させていければよいという思いから参加しました。
他県から転居	地域情報	友達がいない	サークル情報	伝達する			他県から越してきて、最初に一番嬉しかったのが「まっぼっくり」の情報。こちらに来て、子どもの友達もいない...どこに行こう立場の人に伝える手伝いが出来たらと思っただけから。サークル情報を読み、サークルに参加するようになった。その時の感動を、次にそういう子どもも離れ何かが出来るから。自分の興味のあることが、第一号のまっぼっくりには載っていませんでした。第二号を作ると聞き、是非自分でもやってみようと思っただけから。子育て中の人でいいと言われたので。
無料託児	誘われる	子どもを描いた絵	子連れ参加	自分のため	子どものため		無料託児所付きという言葉に惹かれ、友人からの誘いもあり参加した。子どもの書いた絵も載せてもらえるので、自分にも子どもにもいい機会だと思っただけから。
無料託児	地域の情報	自分で情報を探	自分のため				最初は子どもを無料で預けることに落ちました。現に〇〇での子育て情報というのは、私の中にはほとんどなかったもので、参加してみても、自分でさがして色々調べることによって、自分にプラスになると思いました。
子どもから離れる	子育て以外のことを知る						子育て以外のことを、子どもから離れて知った。
地域の情報	学ぶ	楽しそう	情報誌の作り方				情報誌作りを通して、色々学べるし、楽しそうだったので。
仲間づくり							仲間作りが出来たらと思っただけから。
地域の情報	情報誌の作り方	学ぶ					情報誌づくりのノウハウを身につけたかったから。
行政との共同作業	市街から参加	仲間づくり					行政との共同作業であると聞いたので、参加した。市外からでも参加OKということで申し込みました。どんな母親達が参加しているのかも知りたかった。
ボランティア活動	仲間づくり	自分の歩んだ道	自分の歩む道	自分を見つめる	自分の生きることに		家事と子育てと多少のボランティアでは色々な人のつながりがはなかなかなか出来ないので、色々な人と知り合いになればいいなと思っただけから。〇〇代というのは、自分の来た道、そして、これから自分の進む道について考える年代かもしない。そのうした時に色々な活動に参加して、これからの自分をどうしたいのか、見つめるのはいいことだと思っただけから。仕事かボランティアか考えた時に、フルタイムで仕事をすればは家庭の事情で無理なので、ならばボランティアで、自分の出来る事をやってみようと思っただけから。

質問1:抽出した概念

抽出した概念
新しい情報を発掘する
集まりを楽しむ
育児のマンネリ化から脱皮
育児ライフを楽しむヒントを得る
いろいろな疑問の答えを探す
いろいろなことを学びたい
過去の経験を活かした作業
行政との共同作業への期待
経験を子育てに活かせる
子育て以外のことを知ることができる
子育て真っ最中でも参加できる
子どもから離れて活動できる(託児を用意)
子どもと一緒に楽しめる
子どものためになる
子どもの友達を探せる
サークル情報を知りたい
情報誌の作り方を学ぶ
自分で情報を探す楽しみ
自分でやれる楽しみ
自分と子どもにとっての自己実現の場
自分の生き方を見つける
自分の経験を社会に伝える
自分の町の情報を知る
出産後のニードを満たす
好きな作業ができる
達成感を味わう
仲間づくりをする
よりよいものをつくりたい
ライター経験を生かす
常勤の仕事はできないので何らかの社会参加がしたい
ボランティア活動として参加

質問4. あなたは、この作業を通して、あなた自身のためになる何かを得ましたか。具体的に教えてください。

コード1	コード2	コード3	コード4	コード5	コード6	コード7	記述
仲間ができた	達成感	子育て楽しい					久しぶりに「仕事をしました！」という達成感を得られた気がします。編集作業を通じてママ友達もでき、今まで以上に子育てが楽しくなりました。
交流	意見をいう	仲間が増えた					取材を通じてしか話す機会のない方々と話すチャンスを得たこと。人に対して自分の意見を示す機会を得られたこと。
情報の取得	仲間が増えた	達成感	パソコン技術	自信			今すぐ子どもや子育て中の友だちとやってみよう、行ってみたい所がたくさんでき、たのしみになりました。編集委員の仲間達の姿をみて「子育てでも頑張っているんだな」と励みになりました。パソコンと友だちになれました(やっつ)。パソコンを教えることも、夫婦に新鮮な風が吹き込みました。大変なことでも、達成できる喜びと自信。
仲間ができた							素敵な仲間！
学び	自分の知りたいこと	情報の取得					始めの話し合いなど積み重ねていく中で、自分が知らないことばかりだったので、全てに関して勉強になりました。
情報の取得	達成感						情報を与えてもらうだけでなく、自分で調べるという作業も楽しいし、その過程にも色々な情報が得られると思った。
行政の立場	パソコン技術	仲間が増えた					担当したページに関する内容を詳しく調べた。市役所には市役所の立場があり、書いてはいけないことがあると知った。広報○○や新聞などで、子育てに関する記事をよく注意してみるようになった。パソコンの技術が向上した(去年はワードアートとオートシェイプを覚え、今年はVISIOで地図が書けるようになった)。たくさんの仲間と知り合えた。
意見をいう	パソコン技術						思っていることを口に出して伝える事の大切さを改めて感じました。パソコンの操作も少し上達しました。
協力の技術	仲間が増えた	達成感					友達三人で組んで二つ課題に取り組んで個人個人出来る能力で手分けしてやったり、協力し合えた事、何かに取り組む大切さ、友だちとの絆みたいな物を得たような気がします。
新たな気づき	学び	子育てに生かせる					もうひとつ担当したのが、「習い事とサークルを考えよう」のページでした。こちらは○○先生の講演会のテープをおこしたり、○○先生の本を読んだり、このページを作成するにはいい加減なことでは書けなかったたので、自分自身とても勉強になりました。以前読んだことのある本でも、その時点の私の受け止め方の違いから、新たな発見があったり、以前読んだ時は気がつかなかった、わからなかった文章が、体験を積んだ今だからこぼれかたり、とてもいかにさせるも時間をやりくりする術。パソコンの活用法。
パソコン技術	時間の活用						
地域への愛着	行動による獲得						私自身が少し、尊加、そして埼玉と身近になることが出来た。そして、「行動することこそ得られること」と感じた。
パソコン技術	仲間が増えた	子育てストレス軽減					パソコンが前より詳しくなった。同じような考えの人が、周りにいることを知り、またお知り合いになれてよかったです。自分が何かに集中していると、あまりストレスに感じることがもなく、子育てでもあまり苦痛に感じることが少なくなりました。
達成感	社会貢献	子どもへの理解	母としての自信				この情報誌作成によって、地域の子育て情報がより多くの人の目に触れること、微力ながらお手伝いできたことを誇りに思う。また、今まで子どもを預けた経験がほとんどなかったが、私と離され、号泣する子ども姿を見て、自分を母親としてちゃんと認めてくれるだろうという考えがありました。あの日、子どもの泣き顔、泣き声が何故か今までの自分を評価してくれているようで(子どもには申し訳ないですが)嬉しかったです。
対応の技術							取材をすることで、ちゃんと説明しなければいけないこと。当然のことですが、気持ちのどこかにまつほつくりの二号だからすぐわかるといふ事に気が付きました。文章を書いたり、まとめたときに色々考えるので、顔を久しぶりに使った気がする。他のママ達との触れ合いが出来た。
交流	仲間が増えた						「情報誌」の作り方や、子育てに役立つ生の情報がたくさん入ってきてよかったです。また、同じ地域にパワフルな子育て中のママさんがいることを知り、勇気づけられた。
情報の取得	仲間が増えた	自信					新しい情報の発見。パソコンのスキル向上。仲間同士の深い関係。
情報の取得	パソコン技術	仲間が増えた					
自己の成長	地域への理解	経験の活用	達成感				参加した皆さんの様子を見て、情報誌を作ることが作り手の成長、満足につながり、地域への理解を深めるものだと確信しました。自分の地域でも経験を活かしていける手ごたえを得ました。
仲間が増えた							友人を得ました。今までの友人よりも、より強い結びつきとなりました。
地域活動への参加	虐待の防止	仲間を知る	孤立する人				皆さんの行動を見て、世間には様々な能力をもった優秀な人がたくさんいるんだなと思えました。しかし、虐待をする親のことがよく報道されますが、ひどい親も増えているようで、社会問題にもなっています。また、学校現場などで、子どもの変化がここ10年で著しい。どのようにバランスをとっていったらいいのか、考えさせられました。こういうような活動に参加しない人、孤立しがちな人などのようにすればいいのか。難しい問題だと思えました。

質問4:抽出された概念

抽出された概念
新たな気づき
人に対して自分の意見を言う機会
孤立した子育てからの救い
行政の立場を理解
協力する技術を取得
自分の経験の活用
仲間づくりと仲間との交流が深まること
子育てストレスが軽減され、子育てが楽しくなったこと
この経験を子育てに活かせること
子どもへの理解が深くなったこと
子育てが楽しくなったこと
時間をうまく活用することを覚えたこと
努力することで自分自身の成長を得たこと
自分の知りたかったことを知ることができたこと
自分自身に自信をもつことができるようになったこと
母親としての自信が得られたこと
社会貢献ができた
地域の情報を知ることができたこと
達成感を得たこと
地域への愛着や理解が生まれたこと
パソコンの技術を取得できたこと
集団の中でいろいろな学びができたこと

質問6：この情報集を今後どのように役立てたいと思いますか。自由意見をお書きください。

コード1	コード2	コード3	コード4	コード5	コード6	コード7	記述
子育ての資料							「子育てバイブル」として一家に一冊置いてもらいたい。
情報のリフレッシュ							常に情報をフレッシュにして、レベルアップできるようなアンテナをはりめぐらしたい。
住みやすくて活用	転入	子育て	自分自身				これから出産を迎える方や、草加市に越してきたばかりの方、育児に行き詰まりそうな方、全ての人に見ていただいて、自分も学んでいきたいです。
困ったときの資料							おでかけするときの参考。何かわからないことがあったときに調べる。
実際の子育てに活用	携行資料	次号への構想					掲載されている施設に実際に子どもを連れて行ってみたい。持ち歩いて地図や電話帳のように活用する。熟読して、草加の子育て事情に精通する。次号に向けて構想を練る。
実際の子育てに活用	情報の伝達						行った事のない興味のある場所へは行ってみたいと思います。また、この情報誌を知らない友人に話をしたり、見せてあげたりしたいです。
情報の伝達							知らなかったママさんや、これからママさんになる人達に広めていきたい。知って使ってもらいたい。
学びの裏							私は自分の市に持ち帰り、必ず自分の市の情報誌を作成したいと思っています。作成するには、自分達の方だけでは出来ないで、公民館事業にならないか、相談に行かねば！と思っています。
情報の伝達							私自身はこれらの情報を必要とする時期は終えてしまっているのですが、現在進行形で必要としている人たちに伝えられたらいいと思います。
子育ての資料	情報の追加						自分と子どもの手帳として常に大切に、そしてそれに更に2人で、そして皆でページを増やしていけるように生活したい。
困ったときの資料	育児の励み						何となくそばにおいて、しかしいざという時に頼りになる。そんな存在にしたい。頑張った証。これを見て、落ち込んだときなどで励みにする。
情報の伝達	定着した情報誌						自分で活用していくことはもちろん、友人にも紹介していきたい。いずれ定期刊行誌としてこの地域に定着し、読者からの意見も取り入れ、紹介していただけるようになるとうママ達は心強いだろう。これが草加の子育てネットワークの基盤情報誌に
実際の子育てに活用							他のお友達のお母さんにみてもらったりとにかく、たくさんのお母さんに見てもらいたい)と子ども子育てに役立ててほしい。個人的には、他の人が担当してくれたページを参考にして出かけてみたい。
実際の子育てに活用							自分自身の子育てに役立てたい。
技術の活用	地域に密着した情報						地域に持ち帰り、自分の地域にあった情報誌を作る為の元とさせていただきます。草加の皆さんが求めるものと、自分の地域が求めるものは、きっと又違うと思うので、どこが同じで、どこが違うか、違いを楽しみながら地域で活動した
情報の伝達							マタニティママ達に子ども役立ててもらえるよう広報できたら良いと思います。
大きい子どもには役立たない							地元で長く暮らし、子どもも大きくなった。私個人にとつては、それほど役立つとは思えないのですが…。

質問9：現在の地域の子育て支援について、あなたは行政に何を求めますか。ご意見をお聞かせください。

行政に求める要望	記述
託児の充実	何かやりたいことがあっても、子供を託児に預けてまで何かをしようと思うママは少ないと思います。(自分の気持ちを我慢して、世間の目を考えたりして…。だから、もっと託児システムを確立して、みんな心置きなく子供を預けられる世の中になれば、育児ノイローゼとか育児ストレスなど色々な問題も減っていく気がします。
子育ての実際を知る	行政の担当の方は子育ての現場を知らないし、よく見ようと努力していない。子育て＝ハコモノではなくもっとソフト面を充実してほしい。
実際の子育て中の人の意見を聞いて欲しい	現場の声を聞いて！子育て経験のない者が真の子育て支援をするには現役の子育て中の人の声を聞くべし！
自宅の近くに公園がほしい	自宅の近所に公園がありません。こんな住宅街で公園がないのは何ででしょう。私の周りも公園についてはすぐブーイングです。親子で楽しんで、お友達とも楽しめる楽しい公園を作してほしい。
他続きの簡素化、夜間救急医療、多様な保育制度の充実	手続きの簡素化。夜間救急医療。遊具のある公園を増やしてほしい。多様な保育施設の充実(家庭保育・一時保育など短期保育)。
乳幼児医療の充実、児童館の整備	乳幼児医療の年齢を就学前までにしてほしい。児童館設備の充実。
子育て中の住民の意見を聞いて欲しい	もっと(行政だけでなく)子育てしている人の意見を広く聞き入れてほしいです。
乳幼児医療費公費負担制度の年齢引き上げ	医療費控除の年を上げてほしい。
子育てネットワークの立ち上げへの支援、行政と住民の協働交流会の後援	今、私達〇〇市では、ありがたいことに、行政さんの方から「ネットワーク立ち上げ」の呼びかけがありとてもありがたい状態です。私が活動を通して「今時の子育てママに思うこと」とは「自分ごと」で手一杯の人が多く、人とつながることを不安に思い、広く深くが多い。結果、信頼できる仲間作りが出来にくい状態」ということを感じます。なので、自分達だけでネットワークを立ち上げ、活動を一年してみましたが、なかなか同志が得られず、手ごたえを感じませんでした。
親になる前に親業を学ぶ機会を	そんな時、行政さんの後押しを受け、(といってもサークルに対する支援は、行政はもちろんしないので、子育てサークル交流会を開いてくれて、投げかけてくれました)。みんなの意識が「つながるっていいな」という方向に向かうことを願っています。行政さんとは「任せてもらえる部分」は、完全に任せてもらえる「ような、よい信頼関係を待ちたい」と思います。私達もいろいろな要求をするのではなく、皆が安心してできるバックアップの部分と場所の確保をお願いしたいと思っています。
子どもと一緒に成長できる機会を	外に向けて自分の不安などを発信できる人はあまり心配いらないと思いますが、様々な事情から内にもっとしてしまう人ほど、真に出口を見つける手助けが必要なのではないでしょうか。私は上の子が小学校入学から三年生くらいまでかなり深刻に苦しみました。夫の支えもあり、今ようやく出口が見え始め、子どもとの関係も少しずつ良くなってきていますが、もっと早く快方に向かっていれば、あんなに子どもを苦しめずに済んだのではないだろうかと思えます。
子どもの発達段階に合わせたイベント企画、親子が共に参加できる情報の発信	結婚し子どもが生まれるまで「自分は社会的で人生も楽しく勝ち組だ」と思っていたのですが、子どもが生まれて、初めて自分の未熟さ、不甲斐なさなどに気が付き、歯車が狂いました。子どもと一緒に成長することが出来ず、本当に苦しかったです。かけがえのない命を大切に育むためには、命を授ける前(親となる前)に様々なことを学んでおく、子育ても比較的スムーズに出来るのではないのでしょうか。具体的な方法はなかなか思いつきませんが…。
当事者に実感できる支援を 少数の人たちの小さな意見にも傾聴した支援策を求める	様々な子どもの発達段階に応じたイベント、催し、企画を増やし、親も子もより参加できるような情報の発信を求める。 行政にやってほしいことばたくさんありますが、最近感じていることは、今回情報誌を作ってみてわかったことでもあるのですが、行政は支援してまずと言っているけれど「やっています」と遠い人達に「言っているだけ」で(例:市長が私は子育て支援をしているんですよと年配の有権者に言っているようなもの)実態必要としていない、ママ達にはあまり支援されているという実感がなく、今ひとつ本当の同様に、私を言わぬく、多くの人が同じような思いを言っている、行政が「向かい合い、こまめに声をかけてくれる」に強く感じました。が何をしたいのか、どんな動きか、何をしたいのか、どんな時にどこまでやってもらえるのか、わかからないのが実際のところだと思います。身近に感じる支援って、一番難しいのでしょうか。もう少し、少数の意見にも耳を傾けてくれたら、そんなことから始めてほしいです。
経済的支援、公共施設のバリアフリー	経済的支援の拡充、公共施設のバリアフリー化。保育園待機児童数0。広報そうかの内容をもっと充実させてほしい。ホームページをもっと充実させてほしい。歩道の整備。
安心して子どもを遊ばせられる施設、急な病気の充分な対応の出来る制度、乳幼児医療費助成制度の拡充	もう少し子どもを安心して遊ばせられる施設を増やしてほしい。また病気になるたとき、例えばインフルエンザにかかっているか、かかっていないかわからなく、突然熱を出してしまった時、保健センターの所は検査が出来ないので、いつでも検査が出来ないように対応してほしい。子どもは小さい時はよく病気をするので、乳幼児医療費の補助は小学校に上がるまでにしてほしい。健康カレンダーは町内会に入っていない人にも、配ってほしい。
保育サービスの充実、低価格のサービスの充実	保育ステーションなどの市でしている保育の場はもっと増やすべき、またもっと安くともよいのでは。時間500円くらいに。働くママ、もしくはこれから働きたいママにもっと援助すべき(保育園など)。
経済的援助、保育の充実、公立の保育・幼稚園の増設、毎日開かれている子育てサロン、自宅への保健師の訪問	子育てに優しい環境。子育て世帯に手厚い補助金。支給期間の延長。公立保育園、公立幼稚園の設立。毎日オープンしている出入り自由の子育てサロン。新生児期以外でも自宅まで相談に来てくれる保健婦さん。
当事者の意見を反映させた子育て支援	行政は最近子育て支援をやらなければならないと思っている職員が多く(サービスのよさに)親に対して優しい人もいるが、内容が良い支援とは思えない。当事者の意見に耳を向けて現実にはどうなのか、子育て支援とはシャドウワークのような存在で良いと考える。

<p>市民主体の仲間づくりのできる体制を支援して欲しい</p>	<p>親が子育てで苦しいからと書くと、肩代わりしてもらえないので、鳥抜きできるような目線で活動しているかなど意見交換会を行うことが大切であると思う。現在イベントは年に一回やっているが、何の為にやっているのかが見えないから。市民が自発的に仲間を作れるような環境(会場の提供や広報の仕方など)。</p>
<p>親の自発的な活動を支える支援、ポランテアを廉価な労働力としない配慮</p>	<p>具体的なことではないのですが、行政には手取り足取りの過剰なサービスをしてほしいと思っております。親の持つ能力を引き出すような、自発的な活動を妨げないような、背中を押してくれるような、そんな状態が理想です。住んでいる川口市は「ポランテアの街」と盛んに言っているのですが、ポランテアを安い労働源として行政がみているのが透けていて、行政側と話すところがっかりすることが多いので、市民と行政が対等になれればいいなと思っております。言うのは簡単ですが、実現は難しいですね。</p>
<p>シングル家庭への実情を踏まえたきめの細かい支援を望む</p>	<p>行政に全てを望むのは無理があると考えています。一番気になるのは、何とかしてほしいと思うのは、シングル家庭のあり方です。シングルで子育てをすること、不安定な大人同士の結びつき、補助金制度のあり方、そこには他人が踏み込めない事情もあり、その間で子ども達がどのような思いで暮らしているか。</p>
<p>幼稚園に未就学児を対象としたひろ場専業を設置</p>	<p>行政は知ることゝを怠らず、改善を繰り返して試みるべきだと考えます。保育園、幼稚園に0、1、2、3の未就園児親子を対象にひろば設置の義務化。地域に根ざした保育を目的とするならば、理解も早いと思うのですが、私立は難しいでしょうね。でも期待しています。子どもじゃなかった大人なんじゃないですか、夢を持って生きていける社会を、皆で。</p>
<p>施設・環境のバリアフリー化、乳幼児医療費公費負担制度の拡充、不妊治療の公費負担制度導入</p>	<p>ハード面の充実(保育所、児童館、公園、道路などのバリアフリー化)。働く母親への支援。子育てをしている専業主婦への支援。医療費の負担(乳児医療、不妊治療の自己負担の軽減)。</p>

子育て情報誌作成プロセスに関する意識調査

質問1. 子育て情報誌作成チームに参加した動機について伺います。

以下の回答のうち該当するものすべて○で囲んでください。自由意見も記載してください。

1. 実際に地域の子育て情報が乏しくて困っているから
2. 自分子育て中に、地域の子育て情報が不十分で大変苦勞した経験から
3. 自分自身も、子育てについての地域の生の情報を知りたいから
4. 社会のために貢献したいと思ったから
5. 自分自身の自己実現の場として最適と思ったから
6. 自分の持っている情報や知識を役立てたいと思ったから
7. その他

参加した動機自由記載	
------------	--

質問2. 情報誌を作成するにあたって、あなたがもっとも重点をおいた視点はなんですか。

自由意見	
------	--

質問3. 情報誌編集の過程で、遭遇した困難について教えてください。どんなことに困りましたか。

自由意見	
------	--

質問4. あなたは、この作業を通して、あなた自身のためになる何かを得ましたか。具体的に教えてください。

自由記載	
------	--

質問5. 以下の質問について、あなたの思いの大きさをスケール上に示してください。

1. 人のためになったと思う。

大いになった |—————|—————|—————|—————| ならない
5 4 3 2 1

2. 自分のためになったと思う。

大いになった |—————|—————|—————|—————| ならない
5 4 3 2 1

3. 収集した地域情報の内容の質について満足できましたか。

大いに満足 |—————|—————|—————|—————| 全く不満
5 4 3 2 1

4. 子育て中の親にとって、十分な情報量になったと思いますか。

大いに |—————|—————|—————|—————| ない
5 4 3 2 1

5. 努力しただけの成果はあがったと思いますか。

大いに |—————|—————|—————|—————| ない
5 4 3 2 1

6. この作業に加わって総合的に満足できましたか。

大いに満足 |—————|—————|—————|—————| 全く不満
5 4 3 2 1

質問6: この情報集を今後どのように役立てたいと思いますか。自由意見をお書きください。

自由 意見 欄	
---------------	--

質問7: あなた自身のことについてお尋ねします。

1) 性別を教えてください 1. 女性 2. 男性

2) 以下から年齢を選んでください。

1. 20歳代 2. 30歳代 3. 40歳代 4. 50歳代 5. 60歳代

3) お子さんをお持ちですが

1. はい 2. いいえ

3_1) 「1. はい」とお答えいただいた方にお尋ねします。お子さんの年齢を教えてください。

1. 第一子 () 歳 (1. 男 2. 女)
2. 第二子 () 歳 (1. 男 2. 女)
3. 第三子 () 歳 (1. 男 2. 女)
4. 第四子 () 歳 (1. 男 2. 女)

4) お仕事はしておりますか。

1. 常勤 2. パート 3. 専業主婦 4. 自営業 5. その他

5) 何か社会的活動をしていただけますか。

1. 地域のボランティア ()
2. 地域の役員 ()
3. 非営利組織に勤務 ()
4. その他 ()

質問 8 : 以下の質問についてお答えください。

回答は以下の 1～5 の段階で、該当する番号に○をつけてください。

1. 大いに 2. まあ 3. 何とも言えない 4. たまに 5. 全くない

質問内容	回答				
1.常に自分自身を理解しようと心がけている	1	2	3	4	5
2.自分の行動様式には気を配っている	1	2	3	4	5
3.いつも自分を意識している	1	2	3	4	5
4.自分自身についてよく反省する	1	2	3	4	5
5.自分を人にどうみせるかに関心がある	1	2	3	4	5
6.空想の主人公は自分であることが多い	1	2	3	4	5
7.自分のことはほとんど吟味したことがない	1	2	3	4	5
8.自分が人からどう見えるかが気になる	1	2	3	4	5
9.一般に自分の内的感情には注意を払っている	1	2	3	4	5
10.人によい印象を与えたかどうか気になる	1	2	3	4	5
11.自分の動機をいつも吟味している	1	2	3	4	5
12.出かける前には必ず鏡をみる	1	2	3	4	5
13.気分の変化に敏感である	1	2	3	4	5
14.自分の外見をいつも意識している	1	2	3	4	5
15.何かの問題に取り組むときには、自分の心の動きを意識している	1	2	3	4	5
16.人に見られていると仕事がぎこちなくなる	1	2	3	4	5
17.大勢の集団に入ると神経質になる	1	2	3	4	5
18.人前で話すときには不安を感じる	1	2	3	4	5
19.知らない人でも平気で話ができる	1	2	3	4	5

質問8：現在の地域の子育て支援について、あなたは行政に何を求めますか。ご意見をお聞かせください。

ありがとうございました。

地域における子育て支援ネットワークの構築に関する研究
研究協力者報告書

東京都三鷹市における子ども家庭支援ネットワーク・その構築の経緯
－就学前を中心にして－

松田博雄
熊井利廣

杏林大学医学部小児科
杏林大学保健学部社会福祉学

【研究要旨】

三鷹市における子ども家庭支援ネットワークの特徴は、全ての子どもと家庭を対象に、子どもの障害、子どもの虐待、育児支援などを分けず、公設公営の2つの子ども家庭支援センター、総合保健センター、障害児者の拠点施設北野ハピネスセンターと保育園各々が高い機能を持ち、子ども家庭支援センターが中心となりネットワークを構築することを市の条例で規定し、ファミリーソーシャルワーク、ケースマネジメントの手法で支援していることである。現在のネットワークが構築されるまでの三鷹市の取り組みを、市政がひかれた1950（昭和25）年から1983（昭和58）年三鷹市北野ハピネスセンター開設までの34年間、その後1997（平成9）年最初の子ども家庭支援センターすくすくひろば開設までの13年間、そしてその後2003（平成15）年までの7年間の3期に分けて検証した。

最初の34年間は諸制度が公布され、保健所、児童相談所や保育園などの諸施設が整備された時期である。三鷹市では障害を持つ子どもの親たちが中心となり、「あすなろ学園」が設立され、運営はその後社会福祉協議会となり、1983（昭和58）年に三鷹市直営の北野ハピネスセンター「くるみ」幼稚園に発展した。在宅心身障害児巡回療育相談、保育園、幼稚園に対する巡回指導など、発達障害児の早期発見・早期療育のネットワーク構築を通して、諸機関の連携がはかられた。

その後子ども家庭支援センターが設置されるまでの13年間に保育園の開放事業、「子どもの相談連絡会」の立ち上げ、「三鷹福祉プラン21」の策定、「子育て支援に関するアンケート調査」の実施などを通して、子育て支援への取り組み、虐待事例の対応が現実のものとなった。これらの施策の実現には、現場の職員が調査の分析にかかわり、計画を立案し、そして施策として実行された。そのことで東京都の推進する子育て支援の中心機関、子ども家庭支援センター設立の趣旨がスムーズに実現された。

その後の7年間では、2つ目の子ども家庭支援センターを立ち上げ、ネットワークを教育の分野にまで広げるとともに、総合保健センターでは虐待してしまう母親の「癒しのグループ」を立ち上げ、北野ハピネスセンターとともに、それぞれが役割を分担し、子どもとその親の支援を行っている。「子どもの相談連絡会」は教育委員会などをメンバーに加え、「子育て支援ネットワーク」として発展した。

ネットワークがスムーズに、有効に機能するためには、個々の職員の高い意識と気づきの目が必要である、三鷹市でこのようなネットワークが構築され、機能しているのは、基

幹施設が公設公営であり、中心職種である保育士の職場移動があり、様々な調査、分析、計画の企画に現場の職員が参加することが常態であり、企画した計画を実際の施策に反映させる市長および議会があつてのことである。また、計画に市民や当事者が参加できることも、三鷹市の特徴である。

見出し語 子育て支援 児童虐待 発達障害 ネットワーク

A. 研究の背景

東京都三鷹市は人口約 17 万人で、年間出生数約 1300 人の、東京都のほぼ中央に位置する住宅地域である¹⁾。三鷹市の就学前の子ども達にかかわる主な機関としては、2 つの子ども家庭支援センター、総合保健センター、北野ハピネスセンター、保育園・幼稚園、児童館、社会教育会館、母子生活支援施設などがある。その他に東京都の施設として三鷹武蔵野保健所、杉並児童相談所が、医療機関として地域の診療所と基幹医療機関として杏林大学付属病院と武蔵野赤十字病院がある。その他近隣に乳児院や児童養護施設がある。

三鷹市における子ども家庭支援ネットワークの特徴は、全ての子どもと家庭を対象に、子どもの障害、子どもの虐待、育児支援などを分けずに、子ども家庭支援センター、総合保健センター、北野ハピネスセンター、保育園など各々の機関が高い機能を持ち、子ども家庭支援センターが中心となりネットワークを構築していることである²⁾。現在のネットワークが構築されるまでの三鷹市における取り組みを、市制がしかれた 1950 (昭和 25) 年から 1983 (昭和 58) 年障害児者の拠点施設である三鷹市北野ハピネスセンター開設までの 34 年間、その後 1997 (平成 9) 年子育て支援の拠点施設である子ども家庭支援センターすくすくひろば開設までの 13 年間、そしてその後 2003 (平成 15) 年までの 7 年間の 3 期に分けて検証した。

B. 研究結果

I. 三鷹市制施行から、三鷹市北野ハピネスセンター開設までの時期

[1950 (昭和 25 年) ~1983 年 (昭和 58 年) の 34 年間]

国と世界のレベルの経緯

1947 (昭和 22) 年	児童福祉法公布、教育基本法施行
1949 (昭和 24) 年	身体障害者福祉法公布
1951 (昭和 26) 年	「児童憲章」制定宣言
1959 (昭和 34) 年	「児童権利宣言」国連総会で採択
1960 (昭和 35) 年	精神薄弱者福祉法公布
1964 (昭和 39) 年	母子保健法公布
1981 (昭和 56) 年	「国際障害者年」スタート

三鷹市の経緯

1950 (昭和 25) 年	三鷹市制施行
1956 (昭和 31) 年	市立保育園開設。乳児保育を実施。
1957 (昭和 32) 年	三鷹市社会福祉協議会発足、小学校に障害児学級開設
1959 (昭和 34) 年	母親学級開設